

1	第1回定例会 議案審議 編集委員会より
2～7	各会派代表質疑

市議会だより

平成28年5月号

〒583-8585 羽曳野市誉田 4-1-1
 羽曳野市議会事務局 Tel.072-958-1111
<http://www.city.habikino.lg.jp/17gikai/index.html>

平成28年第1回定例会報告

「市長の施政方針に対する各会派代表質疑」



上空からの古市古墳群

第1回定例会

平成28年第1回定例会は、2月23日から3月25日まで32日間の会期で開催しました。今定例会では、平成28年度施政方針に対する6会派の代表質疑、専決処分報告3件、条例の制定や一部改正、一般会計・特別会計・水道事業会計の平成27年度補正予算及び平成28年度予算など50件の議案と「児童虐待防止対策の抜本強化を求める意見書」1件の54件を審議しました。また、そのうち20件を各常任委員会に付託し審議しました。

今回は8人の議員が一般質問を行いました。今月号では、施政方針に対する代表質疑を中心に報告し、一般質問、各委員会の報告は、次回に掲載いたします。

議案審議

- 条例の制定及び一部改正を可決
行政不服審査法施行条例、中央スポーツ公園条例の制定や緊急援護資金貸付基金を始め、各種基金条例を廃止する条例など30件の条例について審議し、1件が撤回され、29件可決しました。
- 固定資産評価員の選任に係る同意について全会一致で同意しました。
- 平成27年度各補正予算を可決
一般会計、特別会計、水道事業会計など8件の補正予算を可決しました。
- 平成28年度各当初予算を可決
一般会計では、総額39.6億6,434万4千円。また、国民健康保険特別会計の総額17.8億2,783万8千円など7件の特別会計と水道事業会計の当初予算を可決しました。

◆編集委員会より◆

今年度は第6次総合基本計画や地域防災計画、都市計画マスタープランなどが策定され、羽曳野市の市政運営にとって節目の年でありま

す。
また、従前からの百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録の国内推薦への要の年であり、4月29日に開催されました「世界文化遺産を大阪に！グリーンフェスタはびきの」を契機に、世界文化遺産登録に向け邁進してまいります。皆様にもご協力を賜りたく存じます。

今後とも市民に身近な議会を目指し、より充実した市議会だよりを編集してまいりますので、よろしく願っています。

《市議会だより編集委員》

- | | |
|--------|-----------------|
| 花川 雅昭 | 広瀬 公代 |
| 外園 康裕 | 松井 康夫 |
| 日和 千賀子 | 今井 利三 |
| 笹井 喜世子 | (平成28年4月15日付辞職) |

松村尚子（自由民主党議員団）



《予算議会に臨むに当たっての基本的な姿勢について》

●**質疑** 昨年、施政方針で28年を計画年の初めとする第6次羽曳野市総合基本計画策定の意思を表明されたことに對し賛意を示した。総合基本計画は最上位に位置される。「まち・ひと・しごと創生法」の制定を受けた地方人口ビジョンと地方版総合戦略もある。本来はこれら上位計画の指針を根拠にまとめられるのが施政方針で、それに沿って編成されるのが当初予算だ。ところが、総合基本計画は完成形には至っておらず、総合戦略も素案にとどまっている状況で、完成したと過去形で施政方針に盛り込むのは、いかがなものか。将来的ビジョンが示されないまま議会を招集されたことについてどのような考えなのかを、28年度施策と各種計画との整合性をあわせて問う。

●**市長** 総合基本計画の策定に当たっては、議会より6議員、学識経験者、市民代表などによる審議会で審議いただいた。パブリックコメントの結果も逐次情報提供を行ってきた。これらの手続を経た成果として、答申を既にいただいております。施政方針や予算編成を行うに当たっては特段の支障はないものと考えている。これらのことについては、策定に参画の各議員を通じてご

承知いただいていると認識している。
《地方創生について》
●**質疑** 国が策定を求めた地方版総合戦略は、戦略的な施策を推進していくためのもので、今までの総合計画とは一線を画したものだ。既に策定を終えた自治体の人口ビジョンや総合戦略を見比べたが、特筆に値するものはなかった。羽曳野市の地方版総合戦略は、策定途上にあるが、人口減少抑制のためにどう分析され、どのような方向性でまとめられたのか、基本的な考え方を問う。

●**市長** 人口減少は避けることのできない問題だが、基本計画に定める各種施策に取組み、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく地方創生を目指して、定住の促進、地域経済の活性化、町の魅力の向上などに好循環を確立することにより、人口減少を抑制して将来的に持続発展可能なまちにしていきたいと考えている。

《世界遺産登録への取組みについて》
●**質疑** 古市古墳群について藤井寺市と連携して群として統一した整備や活用の方策を示す基本計画を策定するとの意思が示され、これには高く評価する。しかし、登録を目指していた長崎の教会群が推薦を一時取下げられ、これが本年度の文化審議会に間に合わない動きとなると競合する候補地が1件心えることになるが、現在の進捗度合いを問う。

●**市長** 百舌鳥・古市古墳群については文化庁から5つの課題が示された。推薦書原案の熟度を高め、海外の専門家に理解されやすい推薦書となるよう求められた。現在、これらの課題を解決するため、文化庁、宮内庁との協議

を深め、地元の機運の醸成に加え、来訪者に対する環境整備や資産の保全等に努めながら、今年は何としても国内推薦を勝ち取るという強い思いで取り組んでいる。
《心づなと納税について》

●**質疑** 昨年末から羽曳野市ふるさと応援寄付金が本格的にスタートした。寄附額は約70万円であるとのことだが、羽曳野産のブドウやイチジクがなぜ返礼品に加えられていないのか。

●**市長** ブドウ、イチジクについては謝礼品の一つに組入れるよう準備を進めている。これらの商品については、時季に合わせてラインアップに加えさせていた。

《地域防災計画について》
●**質疑** 2月の防災会議で、羽曳野市の新たな地域防災計画が承認されたが、根幹部分についてのみ尋ねる。生命が脅かされる災害時には、行政機関の他に民間の団体が協力を得なければならぬが、調整が図られないまま計画に盛り込まれている。また、各保管場所等の備蓄品の表に水が含まれていないが、考えを聞く。

●**市長** 本市の防災対策の基本となる計画であるので、民間や他の団体との協力的体制なども、詳細な実施内容については今後計画に記載の市の処理すべき事務または業務の大綱に基づき、各々の部署が主体となって実施計画等を策定する。水の備蓄方針については、緊急物資確保の整備項目に飲料水の供給として考え方を記載し、避難所への配備食品については適宜見直しを行う。

《災害初動マニュアルについて》
●**質疑** 地域防災計画は、災害時に市役所職員などがどう動くかが示され、

それが果たして初めて効力を持つ。28年度はその初動マニュアルが業務委託で作られるとのことだが、防災計画に照らしながら庁内議論を行い、作成するのが意識の醸成とともに有益だと考えるがどうか。

●**市長** 本市は大規模な災害に見舞われた経験がないので、職務の継承による初期対応が困難な状況であるが、災害対策活動を躊躇なく行うには、マニュアルはぜひとも必要。作成はコンサルタントが持つ知見を活用するため、危機管理室が市の状況や特性を検討して、円滑な災害対策活動が実施できるような作成するものである。

《教育施策について》
●**質疑** 北川市長は3期目の重点施策として教育を掲げてこられた。28年度はその最後の予算編成となるが、一般会計に占める教育費の割合が7.2%と極端に低い。28年度は1中学校区の3校園にのみ専任のALTを配置することだが、全ての中学校区に1名を配置する必要があると改めて主張するが、考えを聞く。また、ICT関連経費の内容は何か。

●**市長** ALTは従前より2名を配置し、6中学校で活用してきた。28年度は、羽曳野中学校区に専任のALTを配置し、英語教育のノウハウを研究するモデル校とし、今後の羽曳野市の英語教育における市の支援方法を検討してまいりたい。ICT機器の充実については、小学校用データサーバーの入れかえとネットワーク強化のための予算である。

《その他の質問》
●**質疑** 子どもの貧困対策について

笠原由美子（公明党）



●**質疑** 健康面の取り組み、ウエルネスゾーンの状況について質問。健康は生活の中での予防が大きな力を発揮する。初期の利用状況と今後の考えについて質問。

●**市長** 専用の運動機器、機能グッズを使った介護予防、運動プログラムを3カ月をワンクールとして行う。初回で311名の方が申し込んだ。今後も介護保険を使わない元気な高齢者の増加を図り介護予防の充実に取り組む。

●**要望** 介護保険を使わない元気な高齢者のまちを目標に、コース終了後の継続の啓発を要望する。

●**質疑** 防犯カメラ設置助成について、施政方針にニーズに応じた効果的な支援とある。28年度は取り組みに変化があるのか質問。

●**市長** 28、29年は公益財団法人大阪府市町村振興協会による2回限りの安全安心まちづくり推進助成金250万円を加え550万円に増額。補助金を活用し安全安心な暮らしに繋げていきたい。

●**要望** 55台の設置が価値あるものとなるよう要望する。

●**質疑** 妊娠から子育てにおける庁内連携について質問。母子手帳に市のキヤラクターつばたんを入れる事はできないか。また昔と違い今の子育てとは違う内容も多い。嫁の立場では言い

にくい事等を記載した父母手帳配布ができないか。

●**市長** 父や祖父母に対して育児に関する基礎知識、情報を発信する事は育児負担の軽減になる。チラシ内容の工夫とつばたんイラストを入れることを検討し、早く実施をしていきたい。

●**要望** チラシという表現は残念。祖父母が子育て事情を知るツールとして、安心して預けられる一助を行政が支援する事は大事。保育園の待機児童ではなく、祖父母の下で預ける工夫も生まれる可能性があり制作の工夫を要望。

●**質疑** 市独自でつばたんイラストの婚姻届を作成できないか。また婚姻届を出した日、記念日撮影スポットの設置について質問。

●**市長** 空白部へのイラストの挿入など今後研究、検討し婚姻届の届け時に撮影スポットなど考えていきたい。

●**要望** 記念撮影コーナーにつばたんイラストや、婚姻届、出産届、羽曳野市転入記念日など、メモリーとしてお祝いする事を検討し実施を要望する。

●**質疑** 通学路の安全対策、注意喚起の新しい仕組みづくりについて。ランドセルにICタグをセット、信号機のない車の通行量が多い箇所スピーカーボックスを設置、子供が通る際に注意喚起をするシステムの設置を質問。

●**市長** 新システムの導入等市内の状況にふさわしい安全対策の方法を教育委員会とも協議して進めて行きたい。

●**要望** 危険な通学路が多くある。ランドセルに装着するICタグで一部実証実験をした取り組みからスタートし通学路の安全確保を要望。

●**質疑** 市民の安全という観点から、AEDの設置について。AEDをレンタルで確保し365日24時間稼働、年

齢階層も多岐に渡るコンビニに設置ができないか。またメンテナンス費用やランニングコストも低額で大きな効果が生まれる方式を検討できないか質問。

●**市長** 地域へのAED設置、コンビニへの設置も含めて、今後検討したい。

●**要望** AEDのレンタル形式での確保は購入をせず経費を掛けないで365日24時間が大きなメリット。コンビニ設置は大きな効果と、安心感となる。市民の安全を守るため、実施を要望。

●**質疑** 手話言語条例の制定が必要。条例制定に着手する考えについて質問。手話が言語である聴覚障害者にとって、聞こえる人達の首言言語と同様、大切な情報獲得とコミュニケーションの手段として重要な役割を担っている。条例制定に着手すべきと考えるかどうか。

●**市長** 聴覚障害者の手話だけでなく要約筆記、視覚障害者の点字、音訳等今後は国や府の動向を見極め本市の障害者施策をしっかりと進めていく。

●**要望** 手話言語条例の制定がないことのほうが不自然。行政が障害者の方の役に立ち出来る事は何でもすべきと考える。早急に手話言語条例の制定に着手を要望。

●**質疑** 乳がん受診マンモグラフィ・超音波検診の一部助成開始について。

●**市長** 26年度の実施検査に加えてマンモグラフィ検査3,000円、超音波検査1,000円を助成する。

●**要望** マンモグラフィ検診の実施は私の大きな仕事のテーマ。コール、リコール等も駆使し受診勧奨に更なる取り組みを要望。

●**質疑** 生活困窮者自立支援法の4月

からの取り組みについて。

●**市長** 昨年の4月より庁内外の関係機関と連携し多様で総合的な生活課題の解決に向けた支援を行っている。結果4名の方が一般就労に繋がった。平成28年度は大阪弁護士会と連携し法的な支援制度を実施する。

●**要望** ワンストップな相談を要望

●**質疑** 子育てアプリの取り組みについて質問。スマートフォンで時間や場所に捕らわれず気軽に子育て支援に関する情報を取得でき不安感や負担の軽減などを図るアプリが有効だが導入について質問。

●**市長** 子育てアプリ導入の先進都市を参考に研究していきたい。

●**要望** 子育てに優しいまち羽曳野のためにも、子育てアプリの実施を要望。

●**質疑** ひとり親家庭の施策、特に子ども食堂の取り組みについて質問。

●**市長** 子ども食堂、生活支援、学習支援、居場所づくりには、しっかりと支えていきたい。特に重要課題であり府の交付金を活用した事業に取り組む。

●**要望** 子供の居場所づくりとして子ども食堂の実施支援や学習支援に対し羽曳野版ネウボラの実施を要望。

●**質疑** マイナンバー制度開始に合わせた庁内ネットワーク環境の再整備と開始からの推進状況を質問。

●**市長** 96.5%が通知済みで届いていない世帯は別途手続のお知らせを郵送、窓口対応している。申請者数は6,000件を超え、交付済み件数は約2500件。

●**要望** 自治体セキュリティの強化対策案に基づき、庁内ネットワークの環境整備と職員のルールの見直しが市民にとって更なる安心に繋がる。

嶋田 丘 (日本共産党)



《情勢をどうとらえているか》

●**質疑** 今の社会経済情勢は、貧困と格差の拡大が特徴の一つである。働く貧困層の増大、不安定な雇用状況で収入は伸び悩み、社会保険料が高くなっているという情勢をどうとらえているのか。また、安倍政権の下で、日本国憲法の平和と民主主義が壊されつつあるというのも情勢の特徴ではないか。どう考えているのか。

●**市長** 経済情勢については、各種施策の推進により、経済の好循環が進展している。雇用数も緩やかに増加し、一定改善の様子が見られる。とはいっても、情勢好転の恩恵を享受しているものに触れる機会はまだまだ少ない。安全保障に関しては、様々な意見が分かれている。徹底的に議論をすればと思う。いずれにせよ市民の安全と安心を守ることを最優先すべきであり、日本国憲法を遵守しながら市政のかじ取りをしていく。

●**意見** 経済情勢は好転し、雇用も回復というが、そんな甘いものではない。経済情勢を見誤れば、必要な施策の展開は図れない。情勢分析は施政方針の柱である。

《市民が市政に求めるのは》

●**質疑** 今の情勢下で市民が求めているのは生活を応援してほしいという願

いだ。実収入が落ち込み、税や保険料の増大の中、公共料金を引き下げてほしいとの願いがある。国保料は国の財政支援があり、被保険者一人当たり約5千円の効果ということだが、保険料を引き下げることができないのか。

●**市長** 国の財政支援拡充分を反映し国保賦課限度額の算定をしたので、約5千円弱の抑制をはかれた。

●**要望** 保険料は抑制できたということだが抑制ではなく、保険料を直接引き下げ、生活を応援してほしい。

●**質疑** 今の情勢下で共働きでないと生活できない状況がある。それには、保育所が欠かせないが、安定的な待機児ゼロの一つに子ども未来館をあげているが、子ども未来館で今の保育の需要が解決できるのか。

●**市長** ことも未来館は幼稚園機能と保育園機能を兼ね備え、小1プロブレムの解消、円滑な小学校への接続で安心できる子育て環境が整うと考える。待機児童の解消は重要な課題と認識している。民間保育園との連携協力、公立保育園での受け入れ態勢をより一層充実させ、安定した待機児童ゼロを継続的に実現させていきたい。

●**要望** 待機児が圧倒的に多いのは0、1、2歳である。この保育枠を広げなければ待機児の解消にはならない。是非、保育園の建設を要望する。

●**質疑** 市長は教育に力を入れるというが、それは保幼小中一貫教育で特色ある教育ということに集約している。しかし、教育の課題は山積している。不登校、子どもの貧困への対処など、教育を取り巻く環境悪化は枚挙にいとまがない。保幼小中一貫教育で教育の課題は解決できない。教職員の定数増

や少人数学級の実施、貧困が教育の機会均等を阻害していることへの対応などに力を注ぐべきだがどうか。

●**市長** 不登校及び校内暴力への対応については早期発見・早期対応に努めていると報告をうけている。適応指導教室を開設し職員を配置しながら、児童生徒の支援及び復帰の取り組みをすすめている。30人学級及び教職員の多忙化問題は、継続して国や府に要望していく。子どもの貧困問題では、study-oを市内2か所で学習支援をしている。また、留守家庭児童会においても、学習支援を実施している。

●**意見** 保幼小中一貫教育が直接、教育の充実に結びつくとは思わない。教育の目的は人格の完成である。そのことを阻害する要因を取り除くために教育環境整備にこそ力を注ぐべきである。

●**質疑** 自然エネルギーの普及より、原発依存が目立ってきているが、当市の自然エネルギーへの取り組みはどうか。自治体から自然エネルギーへのうねりをつくるのが大切だがどうか。

●**市長** 当市は、省エネルギーに継続的に取り組むとともに、太陽光パネルは、エコプラザなどに設置してきた。また、新設することも未来館にも設置する予定である。省エネ・自然再生エネの取り組みは広報を通して市民への啓発を引き続き行っていく。

●**要望** 公共施設に太陽光パネル設置を視野に入れていただくよう要望する。《一般財源の確保について》

●**質疑** 今、述べてきたことをするためには財源がある。その財源を生み出すのが行政の仕事である。交付金や補助金を国から取ってくる努力をするこ

と、そして、その財源は住民要望を実現することを意識する職場環境の構築を目指すべきだがどうか。また、財源がないからできないというのではなしに、エアコン設置や医療費助成のように、こんな事業をしていくという決断があれば財源が生み出せるのではないか。

●**市長** 補助金など特定財源の確保は、企画・財政担当だけでなく事業担当課においても国、府からの通知及び確認など情報収集を行っている。また、事業実施の中での財源問題では、市として必要な施策を総合的に判断し、住民福祉の増進を図ることを基本的に事業の選択と集中に取り組み、必要な施策を実現していきたい。

《政治姿勢について》

●**質疑** 市政運営の基本は、住民の目線で住民が何を求めているかを把握することが大切である。しかしこの間の市長の姿勢は市民の声を正面から聞くことに極めて消極的である。市民との間に壁をつくるのではなく、橋をかけるといった政治姿勢が必要だがどうか。

●**市長** 住民に寄り添う市政ということだが、第6次総合基本計画は、市民アンケートに始まり、パブリックコメントの実施や、市民・学識経験者・議員に参加いただき、5度にわたる審議会を開催し策定してきた。この意味において、住民の皆様とともに作り上げたものである。

●**要望** 審議会やパブリックコメントなどでの意見集約と直接市民の声を聞くということは分けて考えてほしい。「壁を築くのではなしに橋を築く」そうした姿勢で市政運営をしていくよう要望する。

吉田恭輔（市民クラブ）



●**質疑** 今、世界ではテロとの戦いが続いており日本の周辺も何かときな臭いにおいがしている。このような折北朝鮮は核実験を実施した。平和あつてのまちづくりと市長は言われている。市民を守る立場から、今回の核実験についての考えは。

●**市長** 本市は非核平和都市宣言を行っている。核兵器の廃絶を訴えている。広島、長崎で開催される平和式典に当市の代表として参加している。戦争のない平和な社会を築くことが使命と自覚し活動。そのような中、北朝鮮が核実験を行ったという報道に触れ大変な驚きと激しい怒りを感じた。その日のうちに厳重な抗議と核兵器、核の計画を即刻放棄するよう強く要請した。

●**質疑** もう一つの心配事は中国。南シナ海の南沙諸島や西沙諸島に軍事基地を強化し、日本に対しては尖閣諸島への侵犯や小笠原諸島への何百隻によるサンゴ礁の乱獲など中国脅威論が取り沙汰されている。そのような中、タイムングをはかったように、安倍政権により「安全保障関連法案」が成立した。しかし民意無視という大きな声のもと、SEALDsという学生団体のメンバー初め若い人達による法案反対のデモが起こっている。この法案成立についての考えは。

●**市長** 法案については国会で十分に審議しその動向を注視していく。国民の中で議論され憲法違反である、違反でないという相反する意見もある。若者に対しては非常に大きな期待をし、そのエネルギーが最も必要であると感じる。政治や社会の動きに無関心ではなく自分たちの未来は自分たちで築き上げ、市長として若者がすすくと生き生きと育つまちをつくる。

●**意見** 戦後70年、また昔のような戦争という暗い時代が来ないよう国の政治をしつかりと見守つていかなければならない。私はこの「安全保障関連法案」には反対である。

●**質疑** 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録と観光の拠点づくりについて、大阪府で初めての世界遺産登録という大変な大きな出来事。今毎日のように新聞などで報道されている。世界遺産に登録されれば専門職やボランティアの皆様が集まる拠点が無い。中学生が「羽曳野は歴史と古墳のまち。なぜ歴史資料館がないのか」と言っている。LICCの前に大きな空間地域があるが市の施設として利用できないのか。

●**市長** 世界遺産に登録されると来訪者の増加は必然的に起こる。拠点づくりが必要であると認識している。市役所やLICCに来訪者の拠点としての情報、便益の提供、バスの駐車場などを検討している。観光の拠点づくりでは、道の駅は年間100万人以上の利用があり、近畿エリアにおいてトップクラスの道の駅になり、1万本のアジサイ、桜の植樹を進めている。歴史博物館の必要性は十分認識し大きな将来の展望をもって考える。LICCの前のため池の跡地利用についての市の施設

や、歴史資料館等の用地として利用できないかの提案についても、さまざまな課題整理が必要となるので、今後も引き続き研究していきたい。

●**要望** 子どもたちに歴史資料館をつくるよう市長に伝えると約束した。次代を担う子ども達が集まって勉強する場、話し合う場などの羽曳野を自慢できる場に、という圧倒的な声がある。そういう声をしっかりと胸にとどめていただきたい。

●**質疑** 交通システムは市民の生活、経済活動、観光をはじめとする交流の促進やまちの活性化を支える基本的なインフラ。高齢化社会の到来、当市も一歩足を踏み入れている。高齢者や交通弱者を守る公共交通の強化は不可欠。大阪府で初めての世界遺産と認定されれば堺との東西交流、東と西の交通が激しくなってくる。日本最古の官道「竹内街道」が再び活況をあびる。しかし、この東と西を結ぶ道路に路線バスもシャトルバスもない。ぜひとも必要だと思つが市長の考えは。

●**市長** 明治時代以前には堺から羽曳野、さらに竹内街道を越えて奈良に至る東西の交通が盛んであった。今本市と堺を結ぶ公共交通は整備されていない。百舌鳥・古市古墳群を結ぶ東西交通を検討していくことが重要である。府と堺、羽曳野、藤井寺の4者で検討、協議をしていく。

●**要望** 道づくりはまちづくり、まちづくりは人づくり。100万都市堺から羽曳野へ人と人との交流はますます激しさを増す。今、東と西は近いようで遠い。近くて近き竹内街道を実現していただきたい。

●**質疑** 陸前高田市長を招き防災講演

会が開催されるが今後の交流について。

●**市長** 一昨年花川前議長と現地に赴き市民から預かった義援金を届けた。戸羽市長からの思いを伝えるため当市までお越しいただく。陸前高田市との末永い友情と市民の防災意識の向上のため心の通った交流を続けていく。

●**質疑** 観光ボランティア講座の開催と観光ガイドの育成について

●**市長** 地方創生の交付金を活用し養成講座を開催し、本市の観光ボランティア協会の設立に着手し、しっかりと受け入れ態勢、環境を整え、おもてなしのできるまちにする。

●**質疑** 中央スポーツ公園のオープニングイベントについて。

●**市長** 少年サッカーチームが一堂に集まり、市内外の子どもたちに施設の周知及び利用の促進、市を訪れる子供たちの交流と成長につなげたい。

●**質疑** 老朽化施設の今後のあり方について、一番先ほどの公共施設の更新を考えているのか。

●**市長** 今年度公共施設等総合管理計画の策定が完了した。28年度はまず高鷲幼稚園を建てかえ、機能やサービスを充実させ（仮称）ことも未来館たかわしとして整備する。

●**質疑** 去年の6月、市民クラブの議員が市長の4期目に対する思いを伺つたら、「まちづくりについてはまだ道なかば、積み残したことをしっかりとやっていきたい」と言われたがその意思は変わらないのか。

●**市長** 今も全く変わりなく、ますます強い思いを持って市政に臨んでいる。多くの会派の皆さんとともに良いまちづくりに努力させていただく。

日和千賀子（大阪維新の会）



〈基本方針について〉

●**質疑** 市長は観光を重点施策として上げてきた。軽トラ市はあくまでも羽曳野市内に限ったにぎわいであり、本来の観光施策に求められる効果にはほど遠いもの。観光のビジョンと課題について聞く。また、教育について。study-O、どのような効果をもたらしているか。これからの課題は、専任ALTをなぜ一校区なのか。全校区に一気に広げてこそ英語教育に対する本気度が見えると思う。エアコンについても、小・中学校普通教室への設置を、まず全中学校の実施設計は平成28年度より始めるのか。

●**市長** 丸3年を迎えた軽トラ市も、羽曳野を代表する定番の事業になっている。世界遺産登録を含めて、本市を訪れる外国人がふえていく。無料で高速インターネットが使えるWiFiなどの環境整備、多言語に対応できる観光ガイドブック作成など順次対応。中学生のstudy-Oについては、子育て支援の特筆すべき成果がある。学校の英語教育について支援施策を考えていく。小・中学校の全普通教室のエアコン設置については、平成28年度において、まずは中学校の6校分の実施設計を行い、4年間で達成を目指す。

●**質疑** 大阪府、堺市、藤井寺市と連携を図り、推薦書原案の作成はもとより、機運の醸成など取り組んでおり、古市古墳群整備計画が策定されることだが、その内容とは。藤井寺市とレンタサイクルのシェア事業について進捗状況を。古市駅界間の東西をつなぐ公共交通機関の誘致、公共交通の必然性について。

●**市長** 古市古墳群整備計画については、群全体として史跡にふさわしい整備のあり方や整備の基本的な考え方について、有識者で組織をする整備検討会において十分協議をして計画案を策定する。レンタサイクルの相互利用については、現在堺市、藤井寺市、当市の3市が共同で相互乗り捨て型のレンタサイクルの実現に向けて、周遊ルートの設定、利用料金や利用時間などの検討を進めている。路線バスの新設には、運行経路、経費、運行計画、利便性など多くの課題もあり検討を行う。

●**質疑** 子供を取り巻く環境の変化や地域の人間関係の希薄の中で、若い母親の多くは、多少の差はあれ、育児に対して不安や悩みを抱えている。市長の思う子育て世代が魅力を感じるまちのビジョンとは。安定した待機児童ゼロとは。（仮称）一こども未来館たかわしは、どのような理由のもと高鷲小学校第2グラウンドに整備することが決定されたのか。なぜ西浦、羽曳が丘地域ではなく、幼稚園・保育園の多い当該地域に整備するのか。

●**市長** 子育て世代が魅力を感じるまちとは、保護者が安心できる子育て環

境。安定した待機児童ゼロについては、国の基準を満たしているのに入れない子供たちをつくらないということ。なぜ高鷲地域か。羽曳野の中でも最も古く、役割を担ってきたという歴史的な背景がある。西地域に子供たち、高齢者が集える場所をという望みであった。

●**質疑** 妊婦健康診査に対する公費助成も拡充、マンモグラフィ及び超音波検査について一部助成の内容。介護予防の拡充について、LICウエルネスゾーンが開設され、市民の方々の健康意識が高まり、健康寿命の延伸につながればと思う。現在の利用状況は。フォロアアップはなされていくのか。子供から高齢者までともに健康について地域で触れ合える中で自然と考え、努力し合える場があればと思うが、市長の考えは。

●**市長** 妊婦健康診査の公費助成の拡充について、保険診療分の健診費用額として11万6,840円。2万9,000円の増額。今回の助成額拡充により、近隣市と同じレベルの助成内容となっている。健診への一部助成について、任意で健診を受けられる場合に検診費用の一部を助成するもので、マンモグラフィ検査では3,000円、超音波検査では1,000円の助成をするもの。LICウエルネスゾーンの利用状況は、1から3月期のコースでは抽選の結果、実際に参加は253名となっている。4から6月期のコースの申し込みは600人を超え、市民の健康への意識の高さを改めて実感している。ウエルネスゾーンの卒業生の皆様には、地域の介護予防のリーダー

として、介護予防の取り組みが継続的に拡大をしていく。子供から高齢者まで集える地域活動の場の創出については、高年生きがいサロンのあり方を検討する中で積極的に検討を進める。

●**要望** 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録に向け、堺市や藤井寺市とともに共同で相互乗り捨て型のレンタサイクルの実現に向け、進捗状況を見守っていききたい。堺市と古市との間をつなぐ東西の交通機関は、本市の発展においても不可欠なもの、より一層の加速化を図っていただきたい。小・中学校普通教室エアコン設置に向け、私たち大阪維新の会は以前より要望してきた。4年間で達成を実現していただきたい。ALTにおいては、非常に物足りなさを感じている。文部科学省がグローバル人材の育成の観点から、外国語教育の重要性を示している。児童・生徒の英語コミュニケーション能力の育成を図るため、ICT機器を活用し、遠隔地にいるALTとの授業機会をふやし、海外との交流を進めることで、外国語教育環境を充実させ、児童・生徒の英語コミュニケーション能力のさらなる育成を図る方法も検討していただきたい。子育て支援、介護予防に関しては提言として、0歳から2歳の保育園入園を希望するニーズが高いのが現状。西浦、羽曳が丘地域において保育施設がないのも事実。地域の中で高齢者施設と子供たちの施設が共存する形の生きがいサロンの有効的な利用方法として、小規模な共生ホームの検討を。若い世代の結婚、出産、子育ての希望の実現、高齢者の方々が生きがいを持つる時代に合った地域づくりを要望。

今井利三（羽曳野無所属の会）



●**質疑** 羽曳野市の教育について。羽曳野中学校、埴生小学校の一貫教育についての感想を聞く。

●**市長** 教育改革審議会において、施設一体型の羽曳野中学校、埴生小学校においては、単に連携だけの一貫教育ではなく、施設一体型を生かした一貫性のある、かつ系統性のある本来の一貫教育の推進が必要であるとの答申をうけた。

●**質疑** いまだに生徒数の減少がある。生徒間の競争力の低下、団体生活での応用力が苦手であることがある。生徒数を現状よりよくするには、スポーツ、英語、音楽等の推進校での特色のある学校教育であると思うが、意見を聞く。

●**市長** 全市的な少子化、生徒数のアンバランスなどの状況を踏まえ、校区のあり方を初めとして、特認校制度や学校選択制を考慮し考えている。

●**質疑** 平成30年度に向けて、義務教育学校について市長の考えは。

●**市長** 義務教育学校においては1年生から9年生までの児童が一つの学校に通うことによって、特性を生かして9年間の教育課程において柔軟な学年の区切りを設定できる。羽曳野中学校区においては、中学校教員が小学校で英語の授業を始め緊密な連携と指導内

容の一貫性を高める取り組みを現在実施している。

●**要望** 小規模特認校制度、特認校は、離れた地域からも入学できる学校運営体制ということでもよく研究なされたいと思う。

●**質疑** 高齢者医療について、市独自の検診費用について尋ねる。過去に高齢者インフルエンザ予防接種無料化を市で行っていた。今回、国民年金受給者に限り無料化を考えていないのかを聞く。

●**市長** 健康管理の支援策といたしまして、平成26年度から実施をしている検診費用の一部助成事業がある。今後どのような高齢者施策が出来るのかを検討してまいりたい。

●**要望** 健康管理だけでは、インフルエンザなど、防ぐことはできない。予防接種一つにせよ、国民年金の方は千円の負担も厳しい現状である。市長もその辺をよく考え、国保に余裕があるなら、無料も考えていただきたい。

●**質疑** 障がい者施策について。今回上ノ太子駅バリアフリーについてたずねる。どのような内容なのか。この地区には視聴覚障がい者施設、あすくの里があるが上ノ太子駅の対応を聞く。

●**市長** 平成28年度において、上ノ太子駅のバリアフリー工事に對して補助を行っていく。上下線スロープの改修及びホーム内方線つきのブロックへの改良、誘導及び警告点字ブロック整備、待合室の扉幅改良、車椅子の方や視聴覚障がい者の方にも安全で快適な鉄道駅をご利用いただける環境を整えていきたい。

●**質疑** 駒ヶ谷駅は従来より無人駅である。市民の安全・安心、これが第一

と思う。提案であるが、午前と午後に市の再任用職員の活用を考えたらいかがか。

●**市長** 今後やはり時間帯によるそうした近鉄社員の派遣も含めて考えていただくということ、その働きかけを強めていきたいと思っている。

●**要望** 市のイベントである場所はよく使うので再任用の職員をイベントの時に、駅でも立っていただくように考えたらと思っているので検討してほしい。

●**質疑** 施政方針の中で新規就農者に対して支援の拡大とあるが、羽曳野市はブドウ、イチジク、ワイン、食肉など、地場産業の発展があつて出来る事業であると思うが、地場産業の育成はどのように考えているのか。

●**市長** 食肉産業も含め、地域資源を持つ羽曳野らしさをより効果的、戦略的に市内外へ多く発信するため、軽トラ市や各種イベントのほか、現在作成中の観光ガイドマップ、観光ポータルサイトを活用してPR活動を充実して地場産業育成を図りたい。

●**質疑** 避難公園の必要性について。野々上1丁目、野々上2丁目はどこに一時避難すればいいのか。近くに藤井寺小学校があるが、小学校で避難を受け入れていただけるのか聞く。

●**市長** 野々上1丁目、2丁目の皆さんは、近くの野々上2丁目の区画の緑地と埴生公園に避難していただく。その他避難場所は羽曳野中学校と青少年児童センターが避難場所となっている。堺市と南河内6市2町1村における災害時相互応援協定によって、近隣市の避難場所へご自宅より一番近い小中学

校への避難を心掛けていただきたい。

●**要望** 野々上1丁目、2丁目の方は羽曳野中学校、青少年児童センターが避難場所になっているが、よく考えていただきたい。距離が長く、行くまでに反対に命の危険に遭う。その辺、指定場所もいいのかよく考えていただきたい。

●**質疑** 昨年、同和地区、また食肉業に対して誹謗中傷する悪質な連続差別文書が郵送され、大量配布される事件が発生した。この事件での市長の感想を聞く。

●**市長** 差別文書は平成27年4月に本市内2か所に郵送され、その後、大阪府内、京都府、兵庫県の広域にわたり38か所1,849枚が確認されたと聞いている。その文書には、同和問題を初め職業差別、外国人に対する差別など書かれていた。今なおこのような卑劣な文書が届くことに大変驚きと怒りを感じている。決してこのことについては許されるものではない。

●**要望** いまだにこういった差別文書がまかれることは、人権を守る運動体にとっては、悲しみが怒りにかわり、憤りを感じている。ある方は、特別対策が終わったから同和問題は終結したと言われるが、いまだに差別がなくならないことは事実である。今回の差別文書をまいた人物も特定しているが、今の法律では罰することは難しいのが現状である。今回は今年の2月5日付で侮辱罪で大阪地検が起訴した。私たちは、あらゆる差別をなくすために自主財源で人権運動をおこなってきたい。市長もより一層のご理解をいただきたい。